

滋賀大学のデータサイエンス研究科構想について

滋賀大・データサイエンス学部 竹村彰通

滋賀大学では、2017年4月に日本初のデータサイエンス学部を開設した。日本におけるデータサイエンティストの不足はかなり広く認識されてきており、滋賀大学データサイエンス学部もかなり注目され、多くの報道がなされている。このような中で、大学院の早期設置に対する要望も強いことが明らかとなってきたため、滋賀大学では学部の卒業生を待たず2019年4月に大学院データサイエンス研究科修士課程を開設するための準備を進めている。すでに2018年3月には文部科学省に大学院設置の申請書を提出することができた。定員は20名である。

滋賀大学データサイエンス学部では企業との連携を重視している。これは、データサイエンス教育において企業の直面する実際の課題を反映するようなカリキュラムを設計・充実させる目的がある。また企業のデータ分析の担当者と協力して企業の直面する課題をデータサイエンスの立場から解決することにより、企業内のデータサイエンティストの高度化に貢献する意味もある。このような企業連携の中で、企業内の人材の高度化のためのニーズが非常に強いことが明らかとなってきた。このような社会的な需要を背景として、滋賀大学では大学院の早期設置に取り組むこととした。

修士課程で育成する人材像のキーワードは「方法論とデータをつなぐ価値創造人材」である。それは、データに基づいて意思決定するための一連の過程を自らのイニシアティブで実施し、価値創造につなげることでできる一貫貫型の人材である。ビッグデータの利活用による意思決定と価値創造のためには、直面する領域の知見をもとに適切な課題を見つけ、その解決につながるデータを収集・取得し、加工や研磨などの前処理を行い、それを分析するためのモデルを決め、最適化計算を実施し、計算結果を解釈してわかりやすく伝え、意思決定に貢献する必要がある。この一連の過程を、ここでは「方法論とデータをつなぐ」と表現している。

来年4月の修士課程開設の時には、まだデータサイエンス学部の卒業生は出ていない状況であり、入学生としては企業から派遣社会人や他大学の出身者を想定している。学部からの卒業生が出る2021年には定員を増やすことも検討している。学部生にとっては修士の院生、特に企業から派遣された院生が近くにいることは、データサイエンティストの具体的なキャリアについても身近に感じられるというメリットがある。

なお、大学院修士課程のパンフレットなど、修士課程に関する情報も、次のデータサイエンス学部のホームページにるので、参照されたい。

<https://www.ds.shiga-u.ac.jp>